

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 25日

事業所名 鈴鹿市第1療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	17	9		・少人数のグループ制での実施など、状況や場面において柔軟に使用している。	・設置基準は満たしているが、高学年など体の大きな子が行う活動や人数によって狭く感じることがあるので、整理整頓をしてより安全に活動が行えるようにしていく。
	2	職員の配置数は適切である	23	3			・利用人数の増加により、職員数の配置を見直していく
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25	1		・段差がない施設であり、通道に物が少ない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	21	5			・一部の職員だけでなく、広く職員が関われるようにしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	26			・毎年アンケートを実施し、返答を職員間で回覧し、改善もできるところから取り組んでいる。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	21	2	3	・法人のホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20	2	4		・第三者による外部評価は実施していないため、今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	19	6	1	・職場内の研修や放デイの外部向けの研修を毎年行っている	・研修時間や内容などについて検討していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	25	1		・保護者と話しをする機会を作るようにしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	21	5		・子どもへの状況など、必要に応じて対応するようにしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	26			・今までの実績も含めてグループで話し、チェックしながら立案をしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	25	1		・子どもの状況によって活動プログラムを工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	16	8	2	・支援時間が短く、平日のみの開所ではあるが、長期休暇には特別プログラムを用意している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	26			・机上の個別課題と小集団の動く課題の両方を取り入れている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	26				

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
適切な支援の提供	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	26				
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	26				
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	26				
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	18	16	2		・不十分なところについては今後見直しを行っていく。
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	25		1	・子どもの状況に応じて、職員が参画している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	18	6	2	・保護者が送迎しているので連絡調整などは行っていない。	・もう少し密に今後連携を取る工夫が必要である。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	18	5	3	・保護者からの情報で行っている。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	22	4			・内容によって、情報共有に努める。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	21	3	2		・今後移行にあたっては情報提供に努めていく。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	21	5		・センターとして研修を企画している。 ・他の研修にも参加している。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	19			
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20	4	2	・職員が参画している。	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	24	2		・放デイのある日に母へ活動内容をフィールドバックしたり、最近の家、学校の様子を母から聴取している。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	13	11	2	・保護者が知りたいこと等にはその都度相談を受けており、相談しやすい環境を整えている。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	26				
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	25		1	・支援する保育士、専門職、相談員が情報を共有し、支援を考え行っている	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	16	9	1	・保護者が参加する当事者団体の会議に、職員がアドバイザーとして参画している。	・今後検討が必要である。

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	25	1			・苦情については適切に対応するように心掛ける。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	17	8	1	・メール配信や掲示板を利用し情報を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	25	1			・個人情報保護について、再度徹底していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	24	1	1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	14	11	1	・地域住民にボランティアとして参加してもらっている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	18	17	1		・マニュアルなど不十分なものについては、検討や見直しをしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17	8	1		・必要な訓練の実施に至っていないので、改善が必要である。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	11	2		・今後研修会を実施していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	15	6	5		・身体拘束を行うケースが生じた場合の対応について職員間の情報共有が必要である。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15	9	2	・保護者からの情報を職員間で共有している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	23	2	1	・個々の事例について、職員間で共有している。	